

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

4月18日に6年生を対象に実施しました全国学力・学習状況調査ですが、学校としての結果分析と今後の学力向上に向けての対策を検討してきました。今回、その結果と今後に向けての基本方針をお知らせします。

<調査結果についての留意点>

- 本調査の結果については児童が身につけるべき学力の一部であり、本校の教育活動の一側面を表すものです。
- 今回の分析は全国・全道の平均値との比較であり、全体の傾向をつかむことを目的としています。個人の結果については、それぞれのご家庭にお渡ししています。

1 調査の内容

①教科に関する調査（国語・算数）

主として「知識」に関するA問題	主として「活用」に関するB問題
<ul style="list-style-type: none">• 身につけておかなければ後の学年などの学習内容に影響を及ぼす内容• 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等	<ul style="list-style-type: none">• 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容• 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容等

②学習状況調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査）

2 教科に関する調査の結果（概要）

（1）国語

- ①国語A：平均正答率は、全国平均を下回っていますが正答率で0.8ポイント差となっており、僅少さとなっています。また、全道平均よりは上回りました。
 - 特に、「書くこと、書く能力」について課題が残りました。具体的には漢字を書く設問で、（参加たいしょう）が書けない児童が多くいました。
 - 手紙の書き方についても、「後付け」の順番に理解不足が見られました。
- ②国語B：平均正答率は、全国平均・全道平均を下回っています。前年度から見ると全国平均正答率に3.5ポイントまで迫ってきています。
 - 記述式の問題に課題が見られました。日々の生活の中で文章を書く習慣が少なくなってきたことが原因の1つだと考えられます。

（2）算数：

- ①算数A：平均正答率は、全国平均・全道平均を下回っています。前年度から見ると全国平均の正答率に3.5ポイントまで迫ってきています。

- ・量と測定の領域は全国・全道平均を上回っていますが、その他の領域は下回っています。特に、短答式領域で課題が残りました。 $6+0.5\times 2=13$ という誤答が目立ちました。正答は7となります。
- ②算数B：平均正答率は、全国平均・全道平均を5ポイント以上下回っています。
 - ・各領域とも全道・全国平均を下回っていますが、その差は小さくなっています。凶形領域に苦手意識を感じました。「小さい封筒に入れるために、長方形の形をした手紙を3つに折る問題」「ゴムの力で動く車の問題」の正答率が特に低かったです。

<全体を通して>

国語A・Bと算数Aの平均正答率は、全国平均・全道平均並であり学力の定着が見られるようになってきました。特に算数Bについては過去6年間で、その差が最小となっています。また、正答数の分布をみると、平均は上がってきてはいますが、二極化も見られるようになってきたことが課題だと感じています。。

3 学習状況調査の結果（概要） ※質問紙調査から明らかになった傾向です。

①望ましい傾向（全国・全道平均と比べて望ましい傾向が強い項目）

- ・授業の最後に学習内容を振りかえる活動を行っていた。
- ・話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいた。
- ・家庭で学校の授業の復習をしている。
- ・毎日同じ時刻に寝る。
- ・いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。

②特に課題となる傾向（全国・全道平均と比べて特に課題として考えられる項目）

- ・課題に対して自ら考え、自分から取り組んでいる児童が少なかった。
- ・相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えることを苦手としている。
- ・国語は算数より苦手としていると児童が多い傾向がみられます。
- ・家庭では、自分で計画を立てて勉強することを苦手としている。
- ・ゲーム、スマートフォン、テレビへの依存度が全国や全道平均より高い。

4 改善に向けて

- ①基本的な生活習慣の定着とともに、家庭での学習時間の確保について働きかけていきます。
- ②家庭学習の習慣化を進めるため、宿題を含め計画的な家庭学習の取組方法を児童やご家庭へ継続してお知らせします。（家庭学習のてびきの活用）
- ③学習した内容が定着できるよう、繰り返し学習やまとめの練習問題を充実させます。
- ④算数科において個に応じた指導を充実させ、学習面でのつまずきに対処します。
- ⑤「話す・聞く活動」「見通しをもった活動」を重視し、「わかった・できた実感できる」授業づくりをさらにめざします。

